

ゴキブリを絶滅する

Mike Potter, ケンタッキー大学農学部昆虫学研究室

ゴキブリは、家庭や食品取扱施設などに出没する最もよく知られた害虫である。ゴキブリは、存在するだけで毛嫌いされている。ゴキブリはバクテリアのような病原菌を運び、食中毒の原因にもなる。最近の研究では、ゴキブリはダニに次ぐ重要なアレルギーの原因であることが知られている。

ゴキブリは、八百屋の買い物袋、洗濯物等に紛れて家庭に持ち込まれることが多い。また、外から迷い込むこともある。一旦定住すると、繁殖力は旺盛で、年間数千の子供が生まれる。

ゴキブリは、食べ物があり、暖かく、湿気の多い場所を好む。食べ物と湿気が繁殖の条件なので、ゴキブリ駆除には衛生管理が重要なステップである。ソフトドリンクの空き瓶、厚紙箱、紙袋など積まないようにする。食べ物はきちんと蓋をし、食べ物のくずや**こぼれ**はよく拭き取っておく。

他の家屋害虫と異なり、ゴキブリは一年中活動するので、家庭にせよ、店にせよ最後は駆除を考える。

ゴキブリを自分で駆除する場合、殺虫剤ベイト(毒餌)とホウ酸が効果的で使いやすい。この解説では、ゴキブリを駆除する際の、ベイトとホウ酸の使い方を説明する。

ゴキブリベイト

ゴキブリベイトは、ゴキブリを誘引する食べ物に遅効性の殺虫剤を含ませたものである。ゴキブリは、典型的な例では、小さいプラスチックの皿にいたベイトを見つけ、食べ、這い回って死ぬ。

巣の近くに持ち帰ったベイトは、吐き出され、あるいは排泄されたものを他のゴキブリが摂食して死ぬ。液状殺虫剤の散布やエアロゾルの噴射と異なり、ゴキブリベイトはかき混ぜる必要がない。また、台所のキャビネットを空にしたり、調理台にカバーを掛けたりする必要もない。ベイトは子供が触れないようにプラスチック容器に入れてあるので、人間もペットも毒物に曝されないですむ。

さらにゴキブリベイトは、蒸発せず臭いもない。ゴキブリベイトにはいろいろあるが、よく効くのは、Combat(R)、Raid(R) Max Roach Bait、及び Roach Ender(R) Roach Bait (Black Flag) の3種類である。3つの商品は、どれも、1箱に12のステーションが入っており、大抵の八百屋や金物屋で販売している。

ゴキブリバイトの使い方

成功の鍵は、置き方である。バイトの皿は、ゴキブリの出没するあらゆる場所に置く。特にキッチンとバスルームである。効果のある置き場所は、シンクやトイレの下、冷蔵庫、ディッシュオッシャー、ストーブの下、ゴミ箱のそば、押入や収納場所、等である。バイトステーションは隅にぴったり付けておく、あるいは、壁が天井や床と接する縁などに押しつけておくことが大切である。このような場所は、ゴキブリの通路になることが多いからである。バイトを隅や縁から離れた露出した面の中央に置くことは非常に効果が少ない。

普通、1回、12個のバイトステーションを使うとよい。台所に10個、バスルームに2個である。他の場所、例えば寝室や洗濯室などにゴキブリが出るような場合は、2－4個余計に使うとよい。バイトステーションの回りに殺虫剤や洗剤などを散布すると、ゴキブリがバイトに寄り付きにくくなるので要注意。ゴキブリの数は、1－3週間で大幅に減少する。他の殺虫剤同様、使用前に製品ラベルよく読むこと。

ホウ酸

ホウ酸を用いたゴキブリ駆除は、100年の歴史がある。ホウ酸は正しく使えば、最も効果のあるゴキブリ駆除薬剤である。残念ながらほとんどの人が間違った使い方をして、時間と金を無駄にしている。ホウ酸は単独で、あるいは前述の毒餌法と併用して使用する。

性質と特長

ホウ酸は、家庭、レストラン、その他の建物のゴキブリを駆除するための素晴らしい薬剤である。ホウ酸は非常に少量でも効果があり、乾燥状態にあるかぎり効果が持続する。他の殺虫剤と異なり、昆虫類はホウ酸に忌避性を示さない。この結果、ゴキブリは、ホウ酸処理した場所を何度でも通り、結局死ぬ。ホウ酸は、ゴキブリに対して強い毒性を示すが、人間、ペット、その他の駆除の対象とならない哺乳動物に対する毒性は微弱である。臭いもなく、揮発性の溶剤も含まない。

ホウ酸は、ホウ素と水が結合した、無機物の白色粉末である。ホウ素は、膨大な地下の 鉱脈から採掘され、洗剤添加剤、歯磨き、うがい薬などの多数の消費材に使用されている。ホウ酸を含む殺虫処方は、金物屋や八百屋でも買える。ホウ酸の粉末は、混合したり溶剤に溶かしたりせず、そのまま使用される。ホウ酸処方は、プラスチック製の、噴射口の付いた、圧縮タイプの瓶で売られていて、そのまま使用できる。(これら容器の外観は、レストランなどの、手で押し出すタイプのマスタードやケチャップの容器に似ている。)

ゴキブリはホウ酸を散布した場所を這い回るうちに死ぬ。小さなホウ酸の粒子がゴキブリの体に付着し、ゴキブリが脚や触覚から粒子を取り除く“毛づくろい”をする際体内にはいる。ホウ酸はゴキブ

リの体表を覆う脂分を通して吸収される場合もある。ゴキブリの住む場所にホウ酸粉末を散布すると、すべてのゴキブリが影響を受ける。

プロのようにホウ酸を使う

ホウ酸を使ってゴキブリ駆除に成功するコツは、適切な量を散布することである。最高の結果を得るためには、粉末は**非常に薄く、ほとんど肉眼で見えないくらいの厚さに散布すること**である。

ホウ酸が積み重なったり、寄り集まったりすると、われわれが雪の吹きだまりを避けて歩くように、ゴキブリもホウ酸を避けて通るようになる。薄く散布するには、容器をよく振ってから、狙った場所に少量ずつ吹き付けるとよい。ホウ酸メーカーは、容器に粉体を入れすぎる傾向がある。容器の2／3程度粉体を満たし、上部に空きがある状態で使えば、粉末の吹きつけは容易になる。容器にペニー硬貨か小石を数個入れとくと粉体がママコを作りにくくなる。こうしておいて、容器を振ってから軽く粉体を吹き付けるとよい。

厚く粉末を散布しない。スプーンで散布するようなことは絶対止める。

どこに散布するかは、どのように散布するかと同じくらい大切である。ゴキブリは、食料、湿気、ぬくもりの近くの隙間、割れ目、引っ込んだ場所に好んで住む。台所や風呂場はゴキブリをよく見かける場所であるが、数が増えると、ドイツゴキブリ以外の種類では、家中どこにでも住む。処理のカギとなる場所は、冷蔵庫、ストーブや皿洗い機の下と裏側、シンクの下、洗面台、シャワー、洗濯機の裏側のように水道管が壁を貫通する穴の中、食器棚や食品収納棚内側の縁に沿った隙間や隅等である。

台所やバスルームのキャビネットの下側には、へこんだり引っ込んだりした場所があることが多く、ゴキブリの隠れ家となる。このような場所には、蹴板のてっぺんに隙間を見つけてホウ酸の粉末を吹き込む。それができない場合は、小さい穴をドリルであけて吹き込む。

ホウ酸をカウンターの上面などの露出した面、特に食品を調理する面に散布してはならない。ホウ酸がかかったら濡れた布で拭き取ること。ホウ酸は単独で、あるいは他のゴキブリ駆除方法と組み合わせで使用する。

ホウ酸処理の効果を高める一つの有用な方法は、前述した Combat(R)や Raid Max(R) あるいは Roach Ender(R)といった商品名の容器入りのゴキブリベイトを併用することである。

ベイトステーションを設置した上から、あるいは近くでホウ酸を散布しないこと。こうするとゴキブリが寄りつきにくくなる。ホウ酸とベイトを正しく使用すれば、この併用法は、プロと同じレベルの駆除成果を達成できる。